

海陽町の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

中野 真弘^{1*} 橋本 美保² 黒崎 仁資³ 坂口 敏司⁴ 酒巻 暢代⁵ 真鍋 憲資⁶
島田めぐみ⁷

要旨：神社本殿は大半が流造^{ながれづくり}で、春日造^{かすがづくり}（王子造^{おうじづくり}：隅木付き春日造）の本殿などが見られた。神社拝殿では、割拝殿^{はいでん}（わりひいわん）形式のものが数多く見られた。那賀川流域に多く見られる四方八方に手先を延ばした組物をもつ神社本殿が2社確認できた。また、農村舞台もいくつか残っていた。寺院は比較的新しい建物が多いなか、小規模な民家型の本堂も多くみられた。お堂は調査したすべてが閉鎖型であった。

キーワード：流造、春日造、王子造、那賀川流域、四方八方の組物、割拝殿、農村舞台、民家型本堂、閉鎖型お堂

1. はじめに

海陽町は徳島県の最南端に位置し、南東には海岸線が伸び、北は那賀町、東は牟岐町に、西は高知県と隣接する。北部・西部にあたる山地は1,000メートルにおよぶ緑豊かな山々がそびえ、中央には北から南に海部川が流れ、下流の左岸流域沿いに細長く開けた平野が広がる。南部では西から東に宍喰川が流れる。平成18年に海南町と海部町と宍喰町が合併して海陽町となっている。

私たち社寺建築班は、令和元年8月2日から延べ12日間海陽町に入り、社寺建築を建築学的見地から調査した。神社は68社、寺院は36カ所、お堂・お庵

は10カ所、農村舞台は3カ所を調査し、案内図（後掲の図10）を作成し、それぞれの建築年代や構造、建築様式などを一覧表（表1・2）にまとめた。

建築年代については、書籍や棟札から確認できるもの以外は、建築様式から推察した。なお、今回は調査対象が多く時間的な制約から、神社については旧社格で村社以上を中心に調査した。現在の海陽町の社寺建築にみられる傾向とともにその特徴を整理するなかで、代表的な建物として神社2社、寺院2カ所をとりあげて詳細調査を行い実測図を作成し、その結果をまとめた。

また、既往調査には、海南町の神社建築¹⁾、海部川流域の民俗²⁾、宍喰の民俗³⁾などがあり、合併前3町の社寺建築調査成果がまとめられているが、すでに発行から15～25年が経過しているため更新の状況についても確認した。

2. 神社建築の概要

今回の調査において、棟札により建築年代が確認できたものでは、芥附の芥附神社本殿（図2）がある。宍喰町史には、正徳元年（1711）再興棟札とあるが、今回の調査ではこの棟札は確認できなかった。その後の寛延3年（1750）建物名不明、文政10年（1827）御崎宮一字修造、萬延元年（1860）奉修



図1 轟神社本殿 妻飾

1 真建築都市研究室 2 遊木民 3 黒崎建設 4 坂口建築設計室 5 阿波市役所 6 studioKEN

7 M-style設計室

* 〒771-0117 徳島市川内町鶴島115-3 sinsin@nmt.ne.jp

復三崎大明神社一宇大工善蔵の棟札を確認した。現在の本殿は、文政10年に修造、万延元年に修復されたものと考えられる。その他の神社も様式から推察する限り、江戸時代後期から明治期にかけて建立されたものがあると考えられる。本殿の建築様式は、浅川字大山の大山神社本殿（図3）が隅木付き春日造（王子造）、高園字西内の王子神社本殿が片入母屋に縋破風の向拝の付くもので、その他は見世棚造の小社殿などを除くとすべて流造であった。春日造とは春日大社本殿の建築様式で、切妻屋根妻入の本殿正面にのみ庇を付けた建物である。隅木付き春日造は、和歌山県の熊野古道に点在する王子社に多く見られる形態である。

流造とは切妻屋根平入の本殿正面の屋根を伸ばして向拝としたもので、県下において圧倒的に多い様式であり、全国的に最も広く分布している。規模は柱間の数で表し、三間社は、大里字松原の八幡神社、久保字久保の八坂神社、吉野字片山の杉尾神社（見世棚造）で、二間社は相川字中野の大名（明）神で、その他はすべて一間社であった。

海陽町の神社建築の特徴として、拝殿が中央部を通路とする割拝殿形式になっているものを17社で確認した。本殿から少し離れた位置に立つ外拝殿と本殿のすぐ近くに建つ拝殿があり、それぞれに割拝殿の形態が見られた。また、通夜堂改装の墨書きもみ



図2 芥附神社本殿



図3 大山神社本殿

られ、割拝殿の建物が通夜堂と呼ばれていたことも確認できた。（図4）

神社本殿については、大里字松原の八幡神社や久保字久保の八坂神社や八幡神社、深塙の大山神社、平井字王余魚谷の轟神社など、それぞれの地域を代表する神社本殿と摂社群が見られるなか、芥附神社本殿のような小規模な一間社で流造折屋根板葺の上に銅や鉄板で覆葺き、板軒で見世棚造に浜床が付くものも多く確認した。また、那賀川流域や県南エリアで多くみられる四方八方の手先組物をもつ神社本殿を2社確認した。富田字ホキロの杉尾神社と吉田字前田の春日神社であるが、建築年代は杉尾神社が明治29年（石碑刻銘による）で、春日神社は前身建物の意匠形態を受け継ぎ昭和にはいって再建（修



図4 高園字西内の王子神社外拝殿（割拝殿）

復) されたものと考えられる。轟神社本殿(図1)が安政7年(1860)に木沢村の湯浅岩蔵により建立されており、那賀川流域の大工との交流からその大工技術も広まつていったものと考えられる。

今回調査できた農村舞台は3ヶ所で、そのうち伝統的なものは平井字平井の御崎神社境内に建つ農村舞台(図5)1ヶ所で、ほとんどが集会所などに建替えられていた。

地神塔については、今回調査したすべての神社において有無を記録し表にまとめたが、村社などにおいても地神塔の無い神社が比較的多かった。(図6)



図5 平井字平井の御崎神社 農村舞台

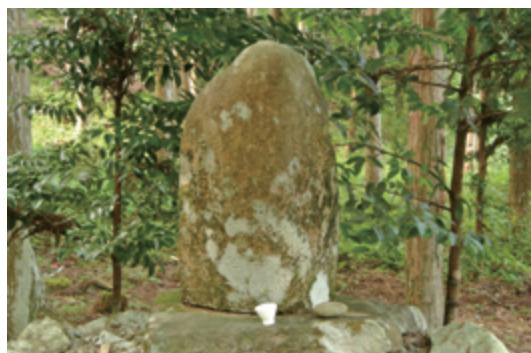


図6 花姫神社境内の地神塔

3. 寺院建築の概要

寺院は36カ寺を調査したが、比較的新しい建物が多く、市街地においてはほとんどが昭和以降に建て替えられていた。

寺院で建築年代が確認できているもので古いのは、鞆浦字東町の法華寺祖師堂で文久3年(1863)の建立であるが、その東側に建つ本堂、庫裡、山門についても江戸末期から戦前までの建物と考えられる。(図7)

棟札などで建築年代は確認できなかったが、奥浦の薬師寺の本堂脇の堂宇や浅川の千光寺の三門、鞆

浦の万照寺の山門などは様式から江戸後期頃の建物と考えられる。そのようななかで、櫻ノ瀬の高西寺(図8)は寄棟造に茅葺き波トタン巻き、日比原の正福寺(図9)や尾崎字八山の西光寺など上屋は切妻造で下屋を回す小規模な民家型の本堂も多くみられた。

また、平井字王余魚谷の龍王寺(轟大権現)は、明治期の神仏分離令により轟神社と分かれたが、轟滝を修驗道場として信仰を集める寺院で、拝所から本堂が三殿形式で構成されており往時の神仏習合の名残を残している。

お堂とお庵は10ヶ所を調査した。形式はすべて閉鎖型で入母屋造や宝形造など屋根形態はさまざまであるが、比較的新しい建物が多かった。



図7 法華寺祖師堂



図8 櫻ノ瀬の高西寺



図9 日比原の正福寺

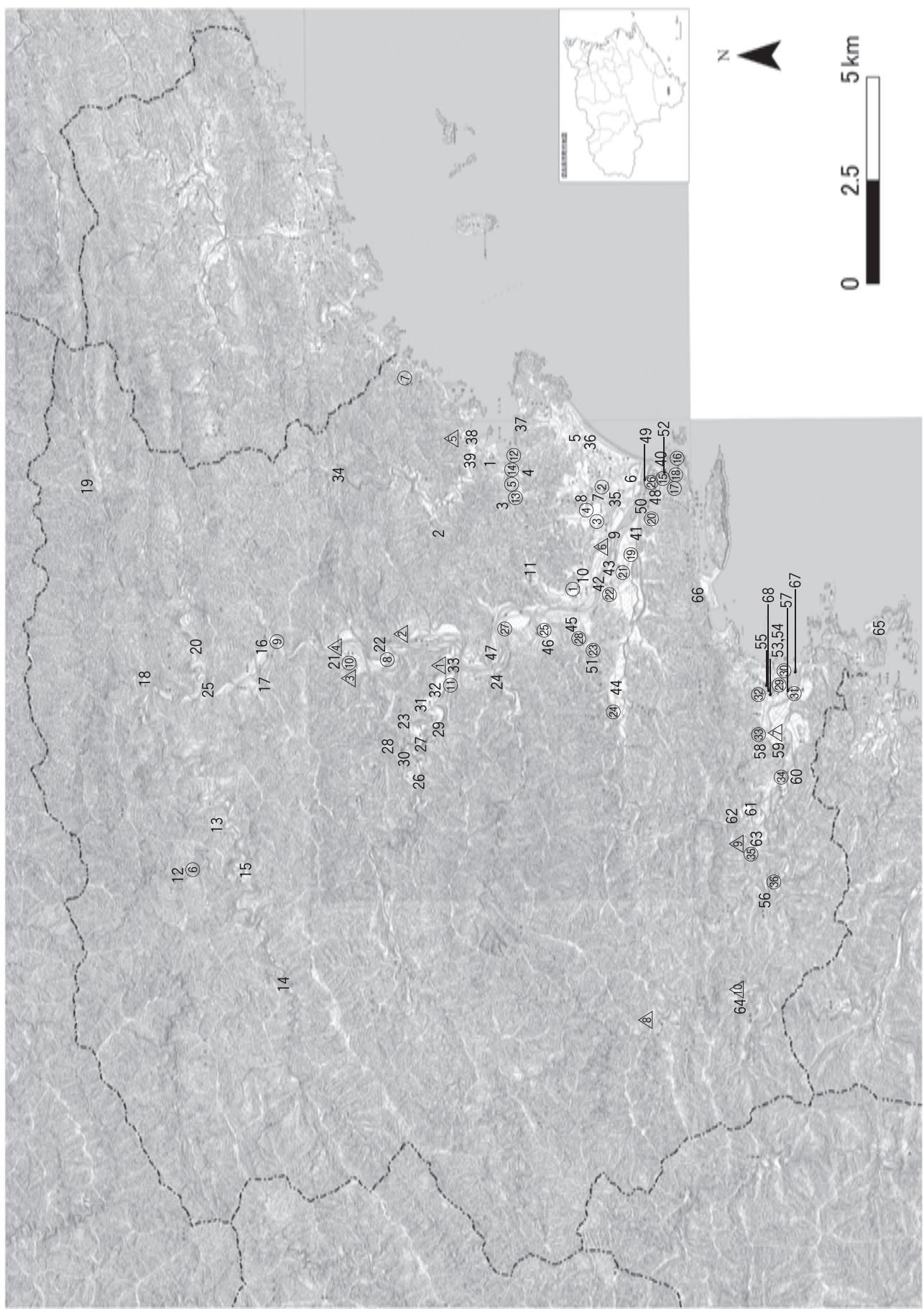


図10 社寺建築案内図（1神社 ①寺院 ▲お堂・お庵）

表1 寺院とお堂建築調査一覧表

寺院名	所在地	開基	宗派	本尊	屋根形式	屋根材	特記事項
1 竜成寺	海陽町吉野字片山118	諸説あり	真言宗	薬師如来	本堂:切妻造棟瓦葺 本堂:入母屋造向拝(木彫) 山門:棟瓦葺	山門:棟瓦葺	A
2 善藏寺	海陽町大里字南側157	不詳	真言宗	薬師如来	本堂:切妻造棟瓦葺(民家型) 山門:平成(推測)	本堂:山門:平成(推測)	O
3 西法寺	海陽町大里良字片山118	不詳	真言宗	薬師如来	本堂:切妻造棟瓦葺(四方下屋:棟瓦)	本堂:山門:平成(推測)	O
4 弘法寺	海陽町西方原字大道西44-1	諸説あり	真言宗	弘法大師	本堂:宝形造三間堂向拝破風本瓦葺	庫裡:寄棟造本瓦葺	本堂:戦前(推定)
5 東泉寺	海陽町淺川字川ヨリ西162	永禄年間・寺伝	真言宗	薬師如来	本堂:寄棟造向拝(木瓦葺) 庫裡:入母屋造本瓦葺 間戸裏区門本瓦葺 諸説:切妻造棟瓦葺	山門:一間	本堂:戦前(推定)
6 龍王寺(轍大幡現)	海陽町平井字玉余魚谷3	不詳	真言宗	十一面觀音菩薩	本堂:入母屋造鋼板葺 宝形造鋼板葺	三間堂	
7 銀輪寺本坊	海陽町浅川字中田4	持統天皇の御代・寺伝	真言宗	弘法大師	本堂:入母屋造向拝(木) 併大師所風本瓦葺		
8 阿泉寺(極淨寺)	海陽町若松字寺宇2	不詳	真言宗	阿弥陀三尊	本堂:切妻造棟瓦葺四方下屋(棟瓦)		
9 高町寺	海陽町小原字瀬21	延承年間・寺伝	真言宗	觀音菩薩	本堂:寄棟苦當(民家型)	六地藏・五輪塔・石垣	O
10 光照寺	海陽町神野字高野90-2	諸説あり	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造棟瓦葺四方下屋(棟瓦)	庫裡:切妻造人梵五書	本堂と庫裡
11 本堂寺	海陽町相川字前木10	不詳	曹洞宗	曹洞宗	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	六角宝形造	本堂:平成(推定)
12 江音寺	海陽町淺川字川ヨリ西169-1	不詳	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造棟瓦葺四方下屋(棟瓦)	庫裡:切妻造人梵五書	本堂:昭和24年大修理
13 正福寺	海陽町淺川字川ヨリ西169-1	不詳	曹洞宗	般若如來	本堂:切妻造棟瓦葺(木) 併大師所風本瓦葺	山門:一間	O
14 光音寺	海陽町淺川字川ヨリ西166-1	永承年間・寺伝	曹洞宗	薬師如來	本堂:切妻造本瓦葺(木) 併大師所風本瓦葺	戸塚門:切妻造人梵五書	
15 善称寺(ぜんしょうじ)	海陽町新浦立岩14	元龟元年(1570)	淨土真宗	阿彌陀如來	本堂:RC造	山門:一間	
16 法華寺(ほつけじ)	海部町新浦字東町112	諸説あり	日蓮宗	日蓮宗	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	山門:明治期(推定)	
17 多善寺(たぜんじ)	海陽町新浦字高倉8	文祿元年(1592)【阿波国新村社】	淨土宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	山門:明治期(推定)	
18 万照寺(まんしょうじ)	海陽町新浦字大宮17-2	不詳	真言宗	薬師如來	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	山門:一間	
19 福智寺(ふくじ)	海陽町高園47	明暦1年(1655)【棟札】	真言宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造棟瓦葺四方下屋(木瓦) 山門(額縁門):一間	戸	
20 正賢寺(じょげんじ)	海陽町高園字木谷16	貞享元年【明細帳】	淨土真宗	阿彌陀如來	本堂:入母屋造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	本堂:屋根茅葺きを小屋下げか	
21 真福寺	海陽町野口142	諸説あり	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造本瓦葺三万下屋(棟瓦)	山門:一部二階建瓦葺	本堂:昭和初期(推定)
22 地藏寺	海陽町芝字居4960-1	不詳	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造本瓦葺三万下屋(棟瓦)	山門:一部二階建瓦葺	
23 真光寺	海陽町中山字丸山14	諸説あり	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造本瓦葺四方下屋(棟瓦)	山門:一部二階建瓦葺	
24 九品寺	海陽町惣川13	記載なし	淨土宗	阿彌陀如來	本堂:切妻造瓦葺四方下屋(棟瓦)	觀音堂:棟瓦葺	本堂:昭和(推定)
25 普福寺	海陽町富田40(富田五反田40)	不詳	真言宗	薬師如來	本堂:寄棟造本瓦葺	山門:五反田40は未調査	O
26 莱乘寺	海陽町奥浦58	天正元年(1573)	真言宗	薬師如來	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	現在空き地	
27 阿弥陀寺	海陽町大井田地4 8	諸説あり	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	富田五反田40は未調査	
28 城満寺	海陽町吉田字半波62	不詳	曹洞宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造本瓦葺	現在空き地	
29 大日寺	海陽町安喰浦23	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造向拝(木) 併大師所風本瓦葺	富田五反田40は未調査	
30 願行寺	海陽町安喰浦322-1	不詳	淨土宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	
31 正法寺	海陽町安喰浦322-1	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	
32 净福寺	海陽町安喰浦322-1	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	
33 正福寺	海陽町日比原180	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	O
34 西光寺	海陽町尾崎1100	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	O
35 極興寺	海陽町角坂1366	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	
36 成福寺	海陽町塩深114	不詳	真言宗	阿彌陀如來	本堂:寄棟造瓦葺	現在空き地	
1 中野庵	海陽町相川字中野			切妻造瓦葺	本堂:昭和初期(推定)	RC基礎	
2 三面觀音庵	海陽町若松字中野			RC造切妻入祠	本堂:昭和初期(推定)		
3 三寺不動明王	海陽町神野字三ヶ尾			切妻造瓦葺	本堂:昭和初期(推定)		
4 正マニク	海陽町神野字神野前			三間堂	本堂:民家型		
5 地藏庵	海陽町栗浦20			RC造切妻瓦葺	本堂:昭和初期(推定)		
6 塔頭	海陽町栗浦20			三間堂	本堂:民家型		
7 莱乘室	海陽町栗浦20			RC造切妻瓦葺	本堂:昭和初期(推定)		
8 地藏庵	海陽町栗浦20			三間堂	本堂:民家型		
9 観音堂	海陽町久尾			RC造切妻瓦葺	本堂:昭和初期(推定)		
10 文殊庵	海陽町鶴津	不詳	文殊菩薩	正面三間面	正面三間面	R C造:鉄筋コンクリート、S造:鉄骨	A:民家型寺院

※海南町史 ※海部町史 ※徳島県の近世社寺建築 ※阿波の社寺建築

A : 民家型寺院

表2 神社建築調査一覧表

海南1~39, 海部40~52, 宮崎53~68

神社名	鎮座地	創建	祭神	旧社格	鳥居様式(材料)	本殿建築様式
1 天神社	海陽町浅川字大田34	天正11年	菅原道真公	旧村社	明神・文化14年(花崗岩)	
2 鷲崎神社(みさき)	海陽町浅川字中相47	不詳	猿田彦命	旧無格社	明神・昭和14年(RC造)	一間社流造 板葺(鉄板覆葺)
3 岩神社(いわ)	海陽町浅川字大畑59	寛永10年	瀬織津姫命	旧無格社	明神・明治28年(砂岩)	一間社流造 板葺
4 御崎神社(みさき)	海陽町浅川浦字川ヨリ西168	慶長2年	猿田彦命	記載なし		一間社流造 銅板葺
5 八幡社	海陽町大里字松原1	不詳	菅田別命・天照大神・天兒屋根神	旧郷社	明神・文政3(花崗岩)	三間社流造 銅板葺
6 一宮神社(いちのみや)	海陽町大里字浜崎157	不詳	猿田彦命	旧無格社	しめ掛け石・明治9(砂岩)	切妻造 向拝一間 本瓦葺 (覆屋兼拝殿)
7 山神社	海陽町大里字飯持41	不詳	大山祇神	旧無格社	しめ掛け石・明治36	小社殿 一間社流造 板葺銅板覆葺(見世棚)
8 二宮神社	海陽町西方原字大道西45	不詳	国常立神	旧無格社		一間社流造柿葺(覆屋内安置)
9 楠王神社(くすおう)	海陽町多良字井口1	不詳	大己貴神	旧村社	明神・(上:砂岩, 下:RC)	一間社流造 銅板葺
10 杉尾神社(すぎお)	海陽町吉野字片山14	不詳	大己貴神・事代主命・三尾神・竈神・照星神 地主神・若宮神・伊吹山神・岡山神	旧村社	明神・昭和10年(RC造+人研)	三間社流造 銅板葺(見世棚) 覆屋 彩色痕
11 御崎神社	海陽町熟田字御崎谷17	不詳	猿田彦命	旧村社	明神・昭和41年(RC造+人研)	一間社流造 板葺鉄板覆葺
12 瀧神社(とどろき)	海陽町平井字王余魚谷21-1	天正19年	水波安命・国狹槌命・大山祇命	旧村社	両部鳥居	一間社流造 銅板葺
13 御崎神社	海陽町平井字平井168	不詳	猿田彦命	旧無格社	明神・鉄製	一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)
14 御崎神社	海陽町平井字大比105-2	不詳	猿田彦命	旧無格社	明神・鉄製	一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)
15 吉野神社	海陽町平井字寒ヶ瀬152-1	不詳	安閑天皇	旧無格社	明神・鉄製	小社殿 一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)(見世棚)
16 八千鈴神社(やちほこ)	海陽町小川字陸ノ瀬81-2	不詳	大己貴神	旧無格社	明神・平成5(RC造)	小社殿 一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)
17 御崎神社	海陽町小川字西桑原77-2	不詳	猿田彦命	旧村社	明神・(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
18 豊崎神社(とよさき)	海陽町小川字皆ノ瀬22-1	不詳	倉稻魂神	旧無格社	明神・昭和9(砂岩)	一間社流造銅板葺
19 五所神社(ごしょ)	海陽町小川字櫻木屋74-2	不詳	埴安比売神	旧無格社	台輪・平成16(花崗岩)	一間社流造銅板葺
20 波那姫(花姫)神社	海陽町小川字志尾28-2	不詳	木花開耶姫神	旧無格社	明神・昭和51(RC造)	小社殿 一間社流造 銅板葺 (見世棚)
21 御崎神社	海陽町神野字神野前156	不詳	猿田彦命	旧村社	明神・平成12(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
22 御崎神社	海陽町若松字土平13-1	不詳	猿田彦命	旧村社	明神・平成2(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
23 阿津神社(あづ)	海陽町相川字阿津1	不詳	木花開耶比売神	旧村社	明神・昭和8(砂岩)	一間社流造 銅板葺 *崩壊寸前
24 御崎神社	海陽町相川字笛無谷72-2	不詳	猿田彦命	旧無格社	明神・平成18(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
25 御崎神社	海陽町小川字小川				明神・木造	一間社流造 銅板葺
26 御崎神社	海陽町相川字村山				明神・昭和4(花崗岩)	一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)(浜床)
27 御室神社	海陽町相川字東前				明神・昭和40(花崗岩)	一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)(見世棚)
28 宝津集会所脇の神社	海陽町相川字室津				明神・昭和15(花崗岩)	一間社流造 銅板覆(見世棚)
29 御崎神社	海陽町相川字柱野				明神・昭和41(花崗岩)	一間社流造 銅板覆(見世棚)
30 ■■神社	海陽町相川字チカラシ谷				明神・昭和60(花崗岩)	一間社流造 板葺鉄板覆葺(折屋根・板軒)(見世棚)
31 妙現神社	海陽町相川字日浦				明神・昭和56(花崗岩)	一間社流造 鉄板葺(見世棚)(浜床) (S造覆屋)
32 日尻神社	海陽町相川字岡本				明神・昭和27(花崗岩)	一間社流造 板葺 身合板軒向拝一軒繁垂木
33 大名(明)神	海陽町相川字中野				しめ掛け石・(花崗岩)	二間社流造 銅板葺
34 大山神社	海陽町浅川字大山7-1				明神・慶応元(花崗岩)	一間社隅木入春日造(王子造) 銅板葺
35 愛宕神社	海陽町大里片山				しめ掛け石・明治36(砂岩)	RC造小社殿
36 中宮神社(ぬ奈佐意富翁神社)	海陽町大里松原	不詳	息長帶比売命・菅田別命		明神・大正9(RC造+人研)	一間社流造 銅板葺
37 蛇王神社	海陽町大里松原海老ヶ池				明神・平成15(花崗岩)	小社殿 一間社流造折屋根鉄板葺(見世棚)
38 栗ノ浦神社	海陽町浅川栗浦				明神・明治31(砂岩)	一間社流造 板葺銅板覆葺(折屋根・板軒)
39 厳島神社(赤い鳥居)	海陽町浅川				明神・昭和55(RC造赤)	小社殿 一間社流造(見世棚)
40 蛭子神社	海陽町柄浦東町波止崎	記載なし	事代主命			一間社流造銅板葺(浜床)
41 尾崎神社	海陽町高園村松木谷45	不詳	短山祇命【神社明細】		明神・昭和56(花崗岩)	一間社流造 板葺銅板覆葺(見世棚)
42 新居神社	海陽町芝字居内64	諸説あり	御井神	旧村社	明神・明治27(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
43 神明神社	海陽町芝字居内64	不詳	天照大神【阿波志】	旧村社	明神・(砂岩)	一間社流造銅板葺(見世棚)
44 杉尾神社	海陽町櫛川字宮ノ前35	不詳	大己貴命・大鷦鷯神・経津主神	旧村社	明神・明治15(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
45 春日神社	海陽町吉田字前田4	不詳	天兒屋根命	旧村社	明神・明治24(砂岩)	一間社流造 銅板葺(覆屋)
46 杉尾神社	海陽町富田字キロ10	不詳	大己貴命・事代主神	旧村社	明神・昭和10(花崗岩)	一間社流造 銅板葺 *ベンキ塗
47 池姬神社・杉尾神社	海陽町大井字家ノ元30	不詳	大己貴命・瀬織津姫命	旧村社・旧無格社	明神・(花崗岩)	RC造切妻造
48 明現神社	海陽町奥浦字町内56	不詳	可々瀬男神		明神・明治35(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
49 楠神社	海陽町柄浦字堤外27	不詳	弥都波能売命		しめ掛け石・(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
50 脇宮神社	海陽町奥浦字脇宮20	不詳	天兒屋根命・弥都波能売命	旧無格社	明神・文化3(花崗岩)	一間社流造 銅板葺(H17年)
51 王子神社	海陽町中山字西の内13	不詳	国常立尊・罔象女命	旧村社	台輪・(砂岩/花崗岩で補修)	一間社片入母屋造(王子造風)向拝一間縦破風 銅板葺
52 住吉神社	海陽町柄浦字北町				しめ掛け石・大正4(砂岩)	切妻(平入)棟瓦葺
53 八坂神社	海陽町久保字久保3	鎌倉時代以前不詳	素戔鳴尊・稻田姫命・八柱御子神	旧郷社	明神・寛政9(花崗岩)	三間社流造 銅板葺
54 摂社大歳神社	同上	八坂神社本殿東脇				一間社切妻造 銅板葺
55 八幡神社	海陽町久保字久保99	鎌倉時代以前不詳	菅田別命(応神天皇)・氣長足姫命・玉依比女命	*旧無格社	明神・(RC造+人研)	一間社流造 銅板葺
56 大山神社	海陽町塩深字尾鼻49	平安時代以前不詳	鷺住王	旧村社	明神・昭和37(花崗岩)	一間社流造 銅板葺
57 愛宕神社	海陽町穴喰浦三反田97	不詳	火產靈命		*飛地境内社	覆屋内未確認
58 日比原(氏神)神社	海陽町日比原(ひびはら)197	不詳	国常立命		*飛地境内社	明神・木造
59 井上(いののかみ)神社	海陽町日比原正田85	不詳	水像女命		*飛地境内社	明神・明治27(砂岩)
60 尾崎神社	海陽町尾崎鉢山131	不詳	天忍穗耳命		*飛地境内社	明神・明治29(砂岩)
61 芥附(くぐづけ)神社	海陽町芥附45	不詳	国常立命		*飛地境内社	明神・昭和4(砂岩)
62 広岡神社	海陽町広岡15	不詳	大山祇神		*飛地境内社	明神・(RC造)
63 天神社	海陽町角坂天神後14	不詳	菅原道真		*飛地境内社	明神・明治14(花崗岩)
64 船津神社	海陽町船津北路101	正徳元年	天兜屋根命		*飛地境内社	明神・平成29(花崗岩)
65 竹ヶ島神社	海陽町穴喰竹ヶ島34	不詳	国常立命		*飛地境内社	明神・明治41(砂岩)
66 吉野神社	海陽町穴喰浦那佐35	不詳	押武金目命		*飛地境内社	明神・明治13(花崗岩)
67 蛭子(えびす)神社	海陽町穴喰227	明和六年	大国主命・事代主命		*飛地境内社	明神・(RC造+人研)
68 大富八幡宮	海陽町久保81	平安時代光孝天皇御守	菅田別命			小社殿(左右一対) 一間社流造(見世棚) 板葺(覆屋)

※徳島県神社誌 ※徳島県改訂神社誌 ※海南町史 ※海部町史 ※穴喰町誌 ※徳島県の近世社寺建築 ※阿波の社寺建築

RC造:鉄筋コンクリート、S造:鉄骨

令和元年8月末現在

拝殿 建築様式 向拝	特記事項	A	B	C	D	E
切妻造本瓦葺 向拝一間 大唐破風造本瓦葺	本殿:平成(推定)基壇は前身のもの					○
両脇に拝社(小社殿・見世棚造)	「阿波志」寛永八年重造す 本殿:昭和初期(推定) 地神明治12(砂岩)					○
拝殿(覆屋)切妻造棟瓦葺 向拝一間棟瓦葺	本殿:修繕H16					○
脇と後方に拝社(小社殿・見世棚造)	本殿:H11					○
入母屋造本瓦葺 向拝/大唐破風・外拝殿RC造切妻造(割拝殿)	初め柄浦大宮に領座、慶長9年松原に移す 拝殿:T12/本殿:戦後(推定)				○	
外拝殿 切妻造 本瓦葺(割拝殿)	本殿覆屋兼拝殿:S43一宮改築祈念石碑 外拝殿:S12修理S57					
	本殿:昭和(推定)					
拝殿(覆屋)入母屋造棟瓦葺 向拝一間棟瓦葺	拝殿:S59					
切妻造 棟瓦葺	明治8年4月1日列格 本殿:幕末~明治様式に台輪上部昭和(推定) 地神:弘化2年(砂岩)					○
外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿) 内部に圍炉裏有り	「阿波志」享禄3年藤原持定が重造した 本殿:江戸後期(推定) 彩色痕 本殿地盤:S6 拝殿:S11か				○	○
切妻造棟瓦葺	本殿:昭和(推定)直線的な肘木					○
拝殿:切妻造銅板葺 外拝殿切妻造 鉄板葺(割拝殿)	本殿:安政7年(1860)大工:湯浅岩蔵(木沢村)建立の記録有り				○	
舞台 切妻造 鉄板葺	本殿:昭和以降(推定) 舞台有り			●	○	
	本殿:昭和(推定)					○
切妻造 向拝一間 切妻造(妻入) 鋼板葺	本殿:平成(推定)					
切妻向拝一間棟瓦葺	本殿:昭和以降(推定)					○
片入母屋造 鋼板葺	皆/瀬公民館					
切妻(平入)棟瓦葺(割拝殿:片側通路型)	片側通路の割拝殿 地神(自然石) 本殿拝殿:H15			○	○	
外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	本殿拝殿: H15年改築*舞台のあと小川谷公民館に使用(S35年)地神(自然石)割拝殿H10			○	○	○
入母屋造 棟瓦葺 外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	拝殿:S54改築 本殿:昭和(戦後)に直線的な肘木などに改修か(推定)			○	○	
切妻造 鉄板葺	大正6年若松宮より移る 本殿:大正期か(推定) 拝殿弊殿S34年改築					○
入母屋造 向拝一間 棟瓦葺 外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	室比壳神社 棟札永享元年 本殿倒壊M20年現本殿はそれ以降 拝殿:S59改築			○	○	
	本殿:S10建立か					○
切妻(平入)棟瓦葺	本殿:平成(推定)					○
	室津集会所横 本殿:平成(推定)					
RC造切妻造拝殿兼覆屋内安置	本殿:昭和(推定)					
	本殿:昭和(推定)					
切妻造(妻入) 向拝一間 棟瓦葺(覆屋兼)	本殿:昭和(推定)					
	本殿:大正~昭和(推定)					
片入母屋造 向拝一間 木瓦葺 外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	本殿:大正(推定) 拝殿:昭和(推定)	○	○			
	式内社 本殿:S62年 組物は前身(明治末~大正)を使う					
	本殿:昭和~平成(推定)					
集会所 切妻造 鉄板葺	地神明治2■年 本殿:昭和(推定)					○
	本殿:S43建立					
	S35頃改築か(推定)					
	小社殿(2社)					
拝殿社務所:切妻造 棟瓦葺(割拝殿)再建H2	明治8年4月1日列格 本殿:昭和(推定)			○		
	明治2年列格 本殿:H21新築					○
拝殿 片入母屋造 棟瓦葺 向拝 切妻造(妻入) 棟瓦葺 外拝殿 切妻造棟瓦葺(割拝殿)	本殿:T2再建H8修理か 拝殿:H8改築 外拝殿・通夜堂(割拝殿):大正(推定)H8改築			○	○	
拝殿 片入母屋造 波板鉄板葺 外拝殿 切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	本殿:昭和(推測)*八方手先組物 前身建物(明治)様式を再現したか 外拝殿:上げ下げ幕帳			○	○	○
外拝殿:解体されていた	本殿:M29当社堂宇再建*:八方手先組物 境内に織部灯籠			○		○
RC造 切妻造	本殿修築S7その後平成に改築か(推測) 拝殿: T13					○
RC造	本殿:昭和~平成(推定)					
切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	本殿:H17再建			○		
切妻造 棟瓦葺(割拝殿)S30とS55修理	「寛保帳」に、いと古き石の手水鉢あり 本殿:昭和(推定)	△	○	○		
拝殿RC造/弊殿:桁行二間梁間一間 向唐破風造 鋼板葺	宍喰町内全城の氏神、旧郷社					
	近世社寺建築に掲載あり					
拝殿:切妻造 向拝一間唐破風造 鋼板葺/外拝殿:切妻造 鋼板葺(割拝殿H12)	宍喰町内全城の氏神 M18本殿焼失その後再建 外拝殿(隨神門)(割拝殿)平成12改築			○		
切妻造 鉄板葺(割拝殿)	古くは宍喰町全城、今では塩深村の氏神 本殿:M12造営S43屋根鋼板に葺替拝殿:S43改築			○		
入母屋造 棟瓦葺(覆屋兼)	宍喰浦西町					
切妻造棟瓦葺 向拝 切妻造(妻入) 棟瓦葺	日比原村全城 本殿:大正から昭和期(推定)					
拝殿:切妻造 鋼板葺/舞台:切妻造棟瓦葺	日比原村全城 本殿:明治期(推定)					
	尾崎全城 本殿:昭和(推定)					
切妻造 向拝一間 棟瓦葺	芥附全城 棟札を7枚確認 本殿:江戸後期(推定)奉修復三崎大明神万延元か(棟札)					
舞台:切妻造 スレー卜葺	広岡全城 右側社殿は幕末(推定)、左側社殿は明治~大正期(推定)				○	
拝殿・社務所 RC造(割拝殿)	角板全城 本殿:昭和(推定)				○	
拝殿切妻造平入瓦棒鉄板葺(平成)	船津全城					
拝殿(覆屋兼):切妻造 棟瓦葺 向拝一間 棟瓦葺	竹ヶ島全城 本殿:H2新築					
拝殿:切妻造(妻入) 棟瓦葺/外拝殿:切妻造 棟瓦葺(割拝殿)	那佐地域 本殿M37(屋根葺替S33)拝殿:H10改築後屋・弊殿: T7以上棟札判・地神塔T10(砂岩)			○	○	
	宍喰浦浜地域 前身建物の鬼板瓦(谷川村産)					
覆屋兼拝殿: 切妻造 向拝一間 鋼板葺	久保、多田家一門の氏神					

A : 隅木入り春日造(王子造) B : 四方八方の手先組物 C : 割拝殿 D : 農村舞台(伝統的●・建替○) E : 地神塔

4. 海陽町の各社寺建築

1) 八坂神社本殿 (表2-53)

鎮座地 - 久保字久保3

[本殿] 木造三間社流造 銅板葺
身舎-円柱 切目長押 内法長押 頭貫木鼻 (象, 桂) 台輪留 二手先 板支輪 二軒繁垂木
妻飾・大虹梁 大瓶束筈形付
開閉装置 格子戸
向拝-大唐破風 角柱 (几帳面取) 虹梁型頭貫
木鼻 (象, 獅子) 出三斗 繫海老虹梁 (錫杖彫) 中備彫刻 三方切目縁 摠宝珠高欄 脇障子 (板) 腰組 東立貫板張 切石
基壇 (砂岩) 千木-3本 堅魚木-3本

(図11～20)

この社は、海陽町の南部、阿佐海岸鉄道宍喰駅北側約200mの山麓の平坦地に鎮座する。徳島県神社誌には「岡ノ山にあったが、慶長元年（1596）現社地の久保に鎮座せられた。」と記述されている。

本殿は、三間社流造銅板葺で、後補により向拝柱から拝殿方向に2間、大唐破風の向拝が伸びる。切石積の基壇に載る、向拝は後補で基壇を広げる。

身舎は円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には象鼻付（図13）の頭貫と台輪が載る。組物は二手先とする。天井は板支輪を張る。軒は二軒繁垂木とし、妻飾は大虹梁を置き、大瓶束筈形付を載せ棟木を支える。（図14）開閉装置は格子戸を填める。

向拝は（図15）、身舎に近い当初の向拝柱（角柱几帳面取）を建て、角材の頭貫で固め、木鼻部は絵振板を付け大唐破風の軒を仕舞う。柱頭部の組物は出三斗であるが、前方は屋根との取り合いで切欠き、繫海老虹梁（錫杖彫）（図16）で身舎と繋ぐ。後補で拝殿方向に張り出した柱は、几帳面取の角柱を建て、虹梁型頭貫で固め、木鼻は前列が象鼻、中列が獅子鼻を付ける。柱頭部の組物は出三斗とする。中備には前列が、素戔鳴の八岐大蛇退治（図17, 18）、中列は頭貫と丸桁の間は蔓股を置き、丸桁の上部に龍・虎・竹・梅の彫刻を置く（図19）。側面の頭貫と丸桁の間は蓮の蔓股で飾る。柱の寸法は列毎に異なり、中列の頭貫天端は、削り取ったような痕跡が見られる、束は継ぎ足した材が見られる。前列の丸桁は彫刻と取合う部分が切り取られ（図20）、最後列の頭貫は新しい角材で簡素なものである。唐破風の向拝を張り出した時に頭貫と木鼻、中備彫刻などの化粧材を前列に移設したと推察する。また、前身の拝

殿の向拝に使われていた彫刻や化粧材などを移設し再使用したとも考えられる。縁は三方切目縁で、擬宝珠高欄を回し、奥は板障子とし、腰組は東立貫、身舎の柱通りで板張とする。向拝奥列と中列の間は浜床を張り、壁は腰板張、上部は格子を填める。中列から前列は床を石張とする。

建築年代は、棟札から江戸時代後期の宝曆10年（1760）建立であると確認されているが、後補による改造や修繕が多くみられる。



図11 全景

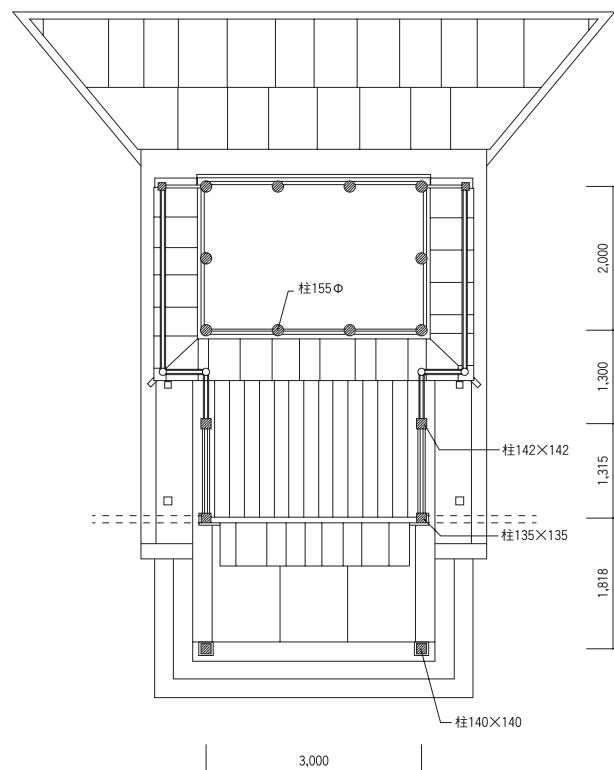


図12 平面図



図13 身舎木鼻



図17 向拝中備彫刻（八岐大蛇退治）



図14 身舎妻飾



図18 向拝中備彫刻



図15 向拝



図19 向拝中備彫刻（中列）



図16 向拝海老虹梁



図20 向拝中備彫刻裏側

2) 杉尾神社本殿 (表2-46)

鎮座地 - 海陽町富田字ホキロ10

[本殿] 木造一間社流造 銅板葺

身舎 - 円柱 切目長押 内法長押 頭貫木鼻 (拳)

台輪木鼻 二手先 (八方) 尾垂木 中備彫

刻 二軒繁垂木
妻飾: 二重虹梁 蓼股 蕉懸魚

開閉装置 桟唐戸

向拝 - 角柱 (角面取) 虹梁型頭貫木鼻 (象) 皿斗

出三斗二重連斗付 中備彫刻 (鳳凰) 繫海

老虹梁 三方博縁 刃高欄 脇障子 (彫刻)
階 五級 (木口) 浜床 腰組 東立腰板張

切石基壇 (砂岩)

千木 - 2本 堅魚木 - 3本

(図21～25)

この社は、海陽町の南東部に位置し、海部川沿いの富田に鎮座する。海部町史に「阿波志には『杉尾祠 富田村に在り。寛文8年釈良雅重造。』と出ている。」と記述されており、大己貴命・事代主神を祭神とする。

本殿は、一間社流造銅板葺で、切石積の砂石基壇に載る。身舎部分は、円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には拳鼻付の頭貫と台輪木鼻が載る。組物は二手先とし、那賀川流域に多く見られる四方八方に手先が伸びる組物が付く。柱間には獅子と牡丹・松と鷹と氷を碎いたような岩の彫刻を施した中備彫刻を填め、軒は二軒繁垂木とする。妻飾は皿斗付出三斗で二重虹梁を受け、大斗肘木で棟木を支える。中備に蓼股を填める。開閉装置は桟唐戸を吊る。

(図21, 22, 23, 24)

向拝は、角面取の角柱を建て、虹梁型頭貫で固め、木鼻 (象) が付く。柱頭部は皿斗に出三斗 (二重連斗付) で丸桁を受け、鳳凰の中備彫刻を填める。繫海老虹梁で身舎と繫ぐ。縁は三方博縁とし、刃高欄が脇障子 (透彫刻: 鯉の滝登) に取り付く。階は、五級の木口階段とし浜床を張る。腰組は東立腰板張とする。(図22)

建築年代は、境内の石碑に当社堂宇再建明治29年と記されている。後補による着色が見られたのが残念である。

境内入口の鳥居付近に外拝殿が建っていたと考えられるが、原因は不明だが解体されていた。

また、今回の調査で、吉田字岡田の春日神社本殿においても四方八方の手先組物 (出組) を確認した。



図21 全景



図22 正面



図23 本殿側面



図24 本殿妻飾

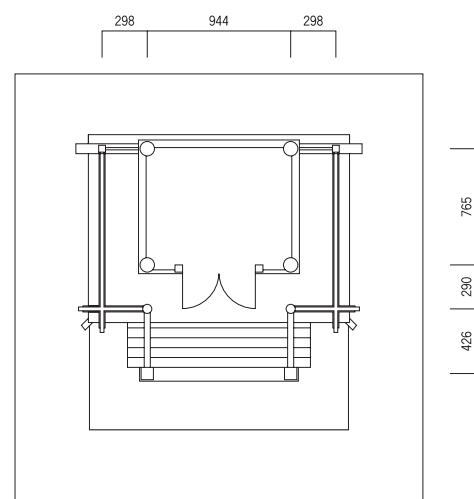


図25 平面図

3) 法華寺 本堂 (表1-16)

所在地－海陽町鞆浦字東町112

木造 正面三間 奥行二間 寄棟造 桁瓦葺
向拝一間組破風

主屋－角柱(角面)・内陣 円柱 切目長押
内法長押 大斗肘木 一軒疎垂木 格子戸
乱石積基壇(砂岩)
向拝一角柱(縫・角面) 虹梁型頭貫木鼻(拳)
皿斗 出三斗送斗付 蓼股 繫虹梁
三方切目縁 板階段三級

(図26～29)

この寺は、海陽町の南東部、鞆港に面する鞆浦集落にある日蓮宗の寺院である。名東郡八万(現徳島市)にあった法華寺が寛永年間に移されたとされる。

本堂は正面三間、奥行二間の寄棟造で、組破風の向拝が付く。外周部は乱石積(砂岩)の基壇の上に三方土台を回し、内部は自然石の上に柱を立てる。三方に切目縁が廻り、高欄は無い。様式的には本尊を高い位置に安置する日蓮宗独自のものではなく、内・外陣の高低差のないものとなっている。

主屋は角柱を切目長押と内法長押で固め、頭貫、台輪は無く、柱頭の組物は簡素な大斗肘木とする。内陣の四本の柱のみを円柱とし、正面奥に軒を取り込んで仏壇とし、厨子を置く。床は畳敷き、天井は竿縁天井とし、内陣中央の天井を高くする。内陣中央の柱間の鴨居と長押が外された痕跡があり、仏壇中央の柱間にも同じ痕跡が見られる。これは厨子を納めるために外されたものと推測される。

向拝は角柱を立て、虹梁型頭貫木鼻(拳)で固め、柱頭には皿斗の上に送斗付の出三斗を載せ、中備彫刻には蓼股を填める。主屋とは虹梁で繋ぐ。

建築年代は今回の調査において棟札等の確認はできなかったが、主屋の柱や壁に墨書きの痕跡が多数あり、向拝側の柱の内面に、土州香我美郡上田村安政七年三月十八日来宿と読める記述があり、様式から判断する限り、それ以前の建立であると推察される。

昭和33年には本堂大修築、平成28年には屋根の葺替えが行われている。

本堂の西隣には庫裡、東隣には祖師堂(町指定文化財・文久三年(1863))があり、山門を含めて江戸末期から戦前にかけて建てられたもので、貴重である。



図26 本堂外観



図27 本堂内部



図28 向拝正面

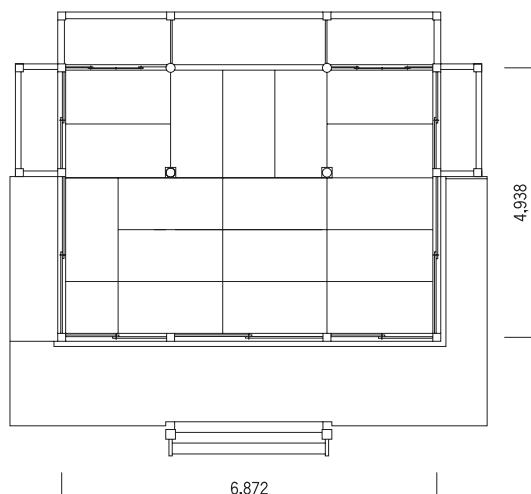


図29 本堂平面図

4) 万照寺山門（表1-18）

所在地－海陽町鞆浦字大宮

[山門] 木造一間一戸四脚門 切妻造 本瓦葺
 角柱（角面）腰貫 頭貫木鼻（拳）
 一軒疎垂木 妻飾 大瓶束 蓼股

(図30～35)

この山門のある万照寺は、海陽町の南東部に位置し、瑠璃山法寿院と号す鞆浦大宮に所在する。海部町史には、「阿波国郡村史に『万照寺 本村南ノ方南町二アリ。真言宗古義派紀伊国金剛峰寺末 寛文二壬寅年焼失ニテ開基創立不詳、宝暦九年乙卯九月増寂明中興ス。』とあり、鞆浦七寺中でも最も開山寺歴の古い寺院の一つと思われる。」とある。

門の形式は一間一戸の四脚門で両袖に土塀が付く。足元には砂岩の切石を敷く。四脚門は、本柱が門の中心となり棟木を支え、その前方後方に袖柱を置くのが通常であるが、この山門は、本柱から袖柱が前後で違う距離に置かれているため、棟木と本柱が前後に多少ずれている。（図35）柱頭部は、本柱の上に冠木を載せ女梁と男梁で固める。冠木中央の蓮形の台座に拳鼻を付けた八面角の大瓶束と、両側の外面に円と内面に薬師如来と大日如来の梵字が彫刻された板蓼股が、それぞれ棟木を支える。本瓦葺の切妻屋根には鬼瓦と鳥衾瓦が付く。（図31～34）両側の軒先につく軒平瓦には模様の違うものが使われており、前身の門の瓦を用いたものと推測される。（図30）建築年代については、今回の調査で棟札等を確認することはできなかったが、軒裏の野地板などが和釘で止められ、木鼻などに江戸時代後期の絵様が見られる。



図31 正面



図32 側面



図33 大瓶束



図34 板蓼股



図30 軒先瓦

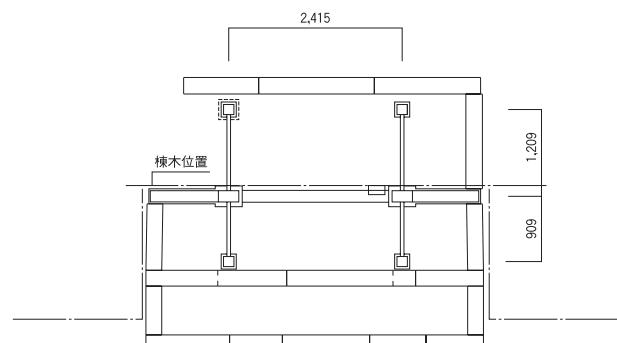


図35 平面図

4. おわりに

今回の調査において、神社建築ではこれまでの調査で那賀川流域で多く見られた四方八方に手先組物をもつ神社本殿を2社確認した。

また、流造が多いなか、隅木付き春日造（王子造）や片入母屋造の本殿（図36）を確認した。

割拝殿の一部は通夜堂として使われていたようであるが、新しく建替えられたものには片側通路形式のもの（図37）がいくつか見られた。通夜堂の必要が無くなつたためなのは、今回の調査で確認できなかつた。調査するなかで、台風被害によって倒壊した神社本殿や外拝殿を確認した。一日も早い復旧を切に期待したい。

寺院については、戦後新しく建て替えられたものが多いなか、小規模な民家型の本堂が多くみられたが今回は詳細調査が出来なかつた。また機会があれば行いたい。

最後に、今回の調査を行う際、神社や寺院の場所の特定に苦労したが、住民の方々のご協力を得て、多くの神社、寺院を調査することができました。

調査にご協力いただいたみなさまに、この場を借りてお礼を申し上げます。

注

- 1) 海南町史編さん委員会編（1992）『海南町の神社建築』海南町
- 2) 徳島県郷土文化会館民俗文化財集編集委員会編（1996）：『海部川流域の民俗』
- 3) 徳島県郷土文化会館民俗文化財集編集委員会編（2004）：『宍喰の民俗』

参考文献

海南町史編さん委員会編（1995.11）：『海南町史』海南町
海部町史編集部編（1971.12）：『海部町史』海部町
宍喰町教育委員会編（1986）：『宍喰町誌』宍喰町

徳島県神社庁教化委員会編（1981）：『徳島県神社誌』徳島県神社庁

徳島県神社庁教化委員会編（2019.11）：『改訂徳島県神社誌』徳島県神社庁

奈良国立文化財研究所編（1990）：『徳島県の近世社寺建築（近世社寺建築緊急調査報告書）』徳島県教育委員会

阿波のお堂の風俗研究会（1988）：『阿波のお堂』徳島県出版文化協会

（社）徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1997）：『阿波の社寺建築』阿波のまちなみ研究会



図36 高園字西内の王子神社本殿



図37 相川字阿津の阿津神社外拝殿(割拝殿)

Architecture of shrines and temples in Kaiyo Town, Tokushima

NAKANO Masahiro*, KITSUMOTO Miho, KUROSAKI Hitoshi, SAKAGUCHI Toshiji, SAKAMAKI Nobuyo, MANABE Kenji and SHIMADA Megumi

* 115-3 Tsurushima, Kawauchi-cho, Tokushima 771-0117, JAPAN E-mail : sinsin@nmt.ne.jp

Proceedings of Awagakkai, No.63 (2021), pp.73 – 85.

